1 審議会名	令和6年度(第8期)第7回上田市上下水道審議会
2 日時	令和6年5月23日(木) 午前9時30分から午後12時30分まで
3 会場	南部終末処理場 2階会議室
4 出席者	渡辺会長、内川副会長、荒川委員、大口委員、久保田委員、小林委員、駒村委員、櫻井委員、下平委員、須長委員、塚原委員、橋詰委員、藤田委員、藤原委員、布施委員、堀内委員、松本委員、宮尾委員
5 市側出席者	宮島上下水道局長、緑川経営管理課長、関上下水道基盤強化対策室長、若林サービス課長、矢澤上水道課長、井出下水道課長、山越浄水管理センター所長、矢ヶ崎丸子・武石上下水道課長、百瀬経理担当係長、宮崎経理担当係長、下林庶務係長、堀内計画調整担当係長、下水道課藤井下水道維持担当係長、庶務係和田主事、上下水道基盤強化対策室水野職員、佐藤裕弥氏(アドバイザー)
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	3人
8 会議概要作成年月日	令和6年6月6日
協 議 事 項 等	

1 開会**2 上下水道局長あいさつ****3 会長あいさつ****4 施設見学(南部終末処理場)****5 議事****(1) 水道料金、下水道使用料・農業集落排水施設使用料の改定について**

○事務局より資料1、2、3、4に基づき水道料金、下水道使用料・農業集落排水施設使用料の改定についての説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 資料の16ページに世代間平準化を図るとあるが、企業会計の仕組みそのものが世代間平準化を図るものである。国が示す3%とすることが世代間平準化を図ることにつながるのか。

(事務局) 世代間の平準化については人口が増加している、あるいは減少している時期において、実額の負担額が異なり、不公平になる可能性がある。そういった観点から資産維持費を一定の率をもって、固定資産の維持費を住民が水道料金で負担する仕組みがある。そして、この仕組みを継続していくことが世代間の平準化であると考えている。

(委員) 資料の11ページに「拡充」という文章があるがどういった意味合いか。

(事務局) 「拡充」というのは設備の増強や規模拡大だけでなく、機能の拡大という意味も含まれている。例えば、水質管理の機能向上につながる設備を導入するといったものがある。

(委員) 令和3年10月に実施した料金改定では内部留保が一定の額を保つように8.30%にしたと聞いている。資料17ページの資産維持費が1%の場合の平均改定率は9.17%とある。前回の料金改定を参考にこの数字を出したのか。

(事務局) 資料16ページは前回の料金改定時の計算方法になります。7ページは前回の事業費を使い資産維持率で計算した場合を示している。また、平均改定率8.30%は内部留保の資金に着目し、算定した。水道料金の決定は審議会を経て市議会の議決を得たもので、前回の料金改定も法令上は適正な

算定金額である。ただ、去年7月に厚生労働省から適正な水道料金の設定等の促進を図るよう通知があり、その新たな料金算定の基準に合わせ、再計算した。今回示しているルールはより法令に準拠し、上田市の健全経営につながると考えている。

(委員) 令和7年度から上下水道料金が上がるという認識で間違いないか。また、サービス業を営んでいる場合、普段の上下水道料金が一般家庭と元々大きな差があり、仮に来年から1.5倍に料金が上がるとなると、燃料費や電気料金も倍近くになっている状態で、事業経営に大変支障が出る。来年の水道料金の上昇に伴って、サービス料金も上げるとなると、早めにお客様に対して周知する必要がある。水道料金が上がるという情報は十分に周知できていないように感じる。簡潔でもよいので、水道料金が上昇する可能性があるという趣旨の資料を作成し、配布する考えはあるのか。また、急激な水道料金の上昇により企業が倒産する可能性もある中で、移行措置は検討しているのか。

(事務局) 料金改定が決まっていない段階での広報は考えていない。料金の決定後、市民に料金改定について周知していく。周知方法、時期に関しては、ご意見があれば頂戴したいと考えている。また、料金が急激に上昇する可能性があるという背景には、改定の時期毎に上げてこなかったことが原因。最初から資産維持率を3%にするのではなく、今回の資料にて提示しなかった割合の検討を含め、段階的に値上げをしていくのが現実的である。次回の審議会で、令和7年から10年の4年間の数字を提示するため、その点も踏まえながら委員の皆様のご意見を頂きたい。

(委員) 上水道と下水道は同時に料金の値上げを行うのか。

(事務局) 料金の値上げを行うのか行わないかは審議会の議論の中で決定するため、同時の値上げになるのかは判断できないが、現状として上下水道どちらも厳しい状態にあることは説明している通りである。

(委員) 上水道と下水道は同じタイミングで審議しているという認識で間違いないか。

(事務局) どちらも4年ごと同時に議論をしている。

(2) 上田市水道事業の今後のあり方について

○事務局より資料5、6に基づき上田市水道事業の今後のあり方についての説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 新たに長野県水道企業団を構成する中で、上田市の水を下流に販売するのか。

(事務局) 現在検討している上田・長野間の水道事業の広域化は上田市、長野市、千曲市、坂城町、県の水道事業を一体化するという構想である。上田市の水を販売するという意味合いではなく、上田市が水道事業の新たな団体に加入するという市町村合併のようなイメージであり、一つの企業体で水資源を共有することになる。

(委員) 水道料金の改定や水道事業の今後のあり方の両方に係ることだが、答申から議会の議決までの詳細なスケジュールをだしてほしい。

(事務局) スケジュールに関しては、議会の議決時期等も含め詳細な内容を次回の審議会でお示ししたい。

(3) その他

○事務局より次回の開催予定について説明

6 閉会